

「旅」ということ

民俗学者の柳田國男によれば、「旅の原型は租庸調を納めに行く道のりのことである。食料や寝床は毎日その場で調達しなければならないものであり、道沿いの民家に交易を求める（物乞いをする）際に、「給べ（たべ）」（「給ふ〔たまう〕」の謙讓語）といていたことが語源である。」ということらしい。旅は危険と隣り合わせのものだった。

今、私たちは安全に簡単に集団で、遠い距離も移動でき、様々な土地の文化や歴史に触れることができる。便利な時代になったとつくづく思う。また、今年度2学年が訪問する「沖縄」は、かつてはパスポートが必要な場所だった。美しい自然、温かい人情の沖縄というイメージを抱く人が多いが、「沖縄」は、常に忍耐と苦勞を強いられてきた場所である。

修学旅行の目的の一つに、戦争と平和という深くて重い課題：人類の歴史とともに常にあった課題と向き合うことがある。皆さんが旅を十分楽しむことも重要であるが、一方で私たちに託された「平和を守る」という責任をそれぞれが感じ、沖縄から学び取ってきてほしいと思う。

集団生活には、譲り合いや思いやりが必要である。学校生活で何気なく行っている行為や交わす言葉に、様々な影響があることを考え、少しずつわがままを押さえ、お互いに心地よい生活ができるようであってほしい。旅に出て本当の自分が見えてくるものである。よりよい自分を発見してほしい。

修学旅行に向けて

1学期、「赤ちゃんとのふれあい体験」は、2年生普通科で実施された。赤ちゃん人形をつかった授業及び、実際のふれあい体験授業は、すべてのクラスのようにすをみたつもりであるが、みんなの取組はとてもすばらしいものだったと思うし、表情もとてもよかった。

文化祭と体育祭が終わった。担当した生徒会顧問や体育科職員をはじめ、職員のほとんどが、生徒（みんな）の活動をととても評価していた。よい行事だったと思っているのだ。確かに、少し取りかかりは遅い面があるかもしれないが、いざやろうとするものすごい集中力を発揮するのが、本校生徒だと思っている。

2年生には、このあとすぐに、高校生活最大のイベントともいえる修学旅行が控えている。当然ながら、小中学校のとき、修学旅行に行っていることと思うが、みんなが考える修学旅行とはどのようなものだろうか。岩波の広辞苑によれば「学校行事の1つ。児童・生徒らに日常経験しない自然・文化などを見聞学習させるために教職員が引率して行う宿泊旅行。」となっている。

昨年度の行き先は北海道だったが、今年度は沖縄である。世界史や現代社会の時間に、行った事前学習のプリントをみせてもらった。DVDをみた感想等がぎっしりと書かれているのをみて、どれだけ真剣に事前学習に取り組んでいたのかがうかがえる。

沖縄の豊かな自然にふれるとともに、沖縄の歴史を理解することにより、平和について考える機会としてもらいたい。また、クラスや学年の仲間との親睦をさらに深めるとともに、仲間のよさや自分のよさを発見する場であってほしいと思う。

集団の中の一員としての自覚をもち、最後まで責任ある行動をとることにより、生涯のよき思い出になるような、すばらしい旅行になってほしいと願う。

学年主任

『修学旅行は平和の象徴』

これは、鉄血勤皇隊として沖縄戦を体験した方の言葉です。この言葉をかみしめて、美しい自然と沖縄文化を味わい、その裏にある歴史を思い、貴重な体験をして下さい。

この修学旅行をとおして、みんなが成長することを期待しています。